



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
ツムぐ

第58号

2017年8月26日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.37

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

自主運営、自主的に雰囲気作り

8月26日の朝、SPの控え室で一コマです。

出勤してきたSPさんが、図書室に入ってきます。「おはよう」「おはよう」SPさんの中には初対面の人もあります。大学も出身も違います。それでも「かたはSP」というだけで、「子どもが好きで、教職を目指し、ともにわく算に参加している」それだけで繋がっています。初対面でもずっと関わっていきける、彼らのコミュニケーション能力の高さは、そのまま「かたはSP」の『質の高さ』となっています。

かたはSPの活動は、ほぼすべてが「自主的」に運営されています。出勤すると、出勤簿を押ししたり、書類を整えたり、配り物をしたり…と、自分たちで進んで動きます。お茶を配る人もずっと動きます。気付いた人がやります。「〇〇さん、席、こっちだよ」自然に声をかけます。図書室（SPさんの控え室）の温かい雰囲気を、自分たちでつくっています。ちょっとした一コマですが、こんなSPさんたちに教えてもらえる小学生は幸せだなあ、と思ってしまうほどです。

学生の募集に尽力してくださっている大澤先生が、いつも言います。「ここに来てくれる学生さんは、本当にいい人ばかり。他の企業の就職試験に言っても、相当ハイレベルで引く手あまたな人材ばかり。企業の人事面接に行っても、きっと高い得点で合格する。そんな人が教職を目指してここに集まってくれる、すごいことだなあ…」

リーダーの谷地さんが、一人でぼーっと待っている人に、声をかけていました。「私、初めてなので…」「じゃあ、まず、出勤簿をpushしてね。ここにあるので…」と声をかけます。自主運営、初めての人にもやさしく教えてあげる雰囲気が、ここにはあります。

